

「未来を創造し、社会に貢献する人材の育成」
令和元年度 柳津町立会津柳津学園中学校

学校だより

令和元年9月 6日(金)発行 第 18 号 発行責任者:高橋 弘悦

応援歌制定！



2日、作詞の大林素子さん、町長様、議長様をはじめ、多数のご来賓のもと、本校応援歌を無事制定いたしました。

開校に伴い、校歌、校章は定められましたが、応援歌がなく、旧柳津中学校や旧西山中学校の応援歌を一部改編して歌うなど、大変寂しい思いをしてきましたが、これで晴れて全てがそうることになります。

応援歌は、講演で本校を訪れてくださった元全日本女子バレーボールの大林素子さんに現状をお話したところ、作詞をご快諾いただいたことがはじまりです。

作曲は、第62回NHK紅白歌合戦にも出場された猪苗代湖ズの渡辺俊美さんをお願いしました。渡辺さんは、福島県のご出身で、「461個の弁当は親父と息子の男の約束」というベストセラーエッセイの作家でもあります。

この応援歌は、大林さんが厳しい練習に耐え、大舞台に立ったときの思いをそのままことばにしたと伺っています。曲想は、作曲の渡辺さんらしい現代風ものとなっており、心がわきたつような作品に仕上がっています。歌詞も曲も一度耳にしたらすぐに口ずさんでしまうような親しみやすいものです。今後、会津柳津学園中学校が続く限り、永遠に応援歌として、そして愛唱歌として歌い続けられるものと確信しています。



車いすバスケットボール体験授業

応援歌制定式に先立ち、車いすバスケットボール体験授業を行いました。大林素子さんの仲立ちで、シドニーパラリンピック元車いすバスケットボール日本代表キャプテン根木慎志さんをお招きすることができ、車いすバスケットボール体験授業を開催することができました。

根木慎志さんの華麗なデモンストレーションからはじまり、生徒同士の車いすバスケットボールを2試合、教員同士で1試合行いました。柳津小学校の子どもたちの応援もあり、試合は大変盛り上がりしました。試合後の感想では車いすバスケットボールの難しさとともに、楽しいという声も上がりました。

試合後には、根木さんと大林さんのトークも聞くことができました。根木さんからは、障がいを負った経緯やそのときのどん底の気持ち、明日にチャレンジする気持ちが前向きな人生につながる、と勇気溢れる言葉をいただきました。生徒達は真剣な眼差しで聞き入っていました。



駅伝頑張る！

5日、会津総合運動公園駅伝コースで、全会津駅伝競走大会が開催されました。

最後まで粘り強く練習に参加した少数精鋭の男子6名、女子6名が最後まで力走してくれた姿が印象的でした。



お伝えしたい記事が多すぎて書ききれません。後日HPやFBページに載せますので、そちらも併せてご覧ください。

ひと

柳津学園中を歌で応援

元バレーボール全日本代表で、会津若松市観光大使の大林素子さんが作詞した会津柳津学園中の応援歌が、完成した。大林さんは先日、柳津町の同校で行われた制定式に臨み、「人生で苦しいときに思い浮かべる曲になってほしい」と思いを語った。

大林さんは昨年12月、同校で講演した際「統合として生まれたばかりの学校の応援歌を作りたい。作詞をお願いしたい」と高橋弘校長から依頼を受けた。

自身が卒業した小学校が廃校となった経験もあったため、大林さんはその場で作詞を依頼。作曲はミュージシャンの渡辺俊美さん（川内村生まれ、富岡町育ち）が担当することになった。「現時代から歌に励まされてきた」という大林さんだが、作詞は今回初めて。約1ヶ月にわたって構想を練り、「1月の月、現役時代の経験を前にしよう」と考え、筆を執った。約1ヶ月で一気に書き上げた。

応援歌の詞は「目指せ 目指せ 勝利だ」「練習 練習 また練習」と、この昭和の「スポ根」を思わせる内容。「あえて昭和感、平成、令和と進み、逆、新鮮に映るかもしれない。勝利とか、今の時代は普段使わないかもしれないが、口にすることで実現する『言葉』の力、なものを信じている」と、大林さんは詞への思いを語る。

式では早速、生徒たちが大林さんを前に応援歌を披露した。大林さんは同日、同校で行われたバスケットボール体験授業にも参加。シドニーパラリンピック男子車いすバスケットボール日本代表キャプテンの根木慎志さんと一緒に、生徒たちに車いすバスケットボールの魅力を紹介した。

練習 練習 また練習
ひとつの夢に向かって進む
今しかない この時だから
自分を信じて歩むのだ
頑張れ 頑張れ
目指せ 目指せ 勝利だ
目指せ 目指せ 勝利だ
目指せ 目指せ 勝利だ
目指せ 目指せ 勝利だ
柳津学園 柳津学園 柳津学園 柳津学園

